

IX 在宅生活改善調査結果

IX 在宅生活改善調査結果

1 サービス名の略称について

在宅生活改善調査は、国から提供されている自動集計ソフトを用いて作成した報告書を掲載している。本報告書内ではサービス名を略称で記している箇所がある。

略称	サービス名
住宅型有料	住宅型有料老人ホーム
サ高住	サービス付き高齢者向け住宅
特養	介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）

2 結果の概要と考察

(1) 在宅生活の状況について

- 過去1年間で自宅等から居所を変更した人は64.1%、自宅等で死亡した人は35.9%であり、在宅生活の継続が困難となり居所変更に至るケースが一定数みられる。
- 居所変更の行先は、「病院・診療所」が23.4%と最も多く、医療機関への移行が多い傾向がみられる。
- 居所変更の行先では、「特別養護老人ホーム」(19.8%)や「住宅型有料老人ホーム」(18.5%)など施設への移行も一定割合を占める。
- 過去1年間で自宅等から居所を変更した利用者は、要介護3以上の割合が多く、要介護度の高い利用者で生活継続が難しくなる傾向がみられる。
- 在宅生活者のうち生活の維持が難しくなっている利用者は3.3%であり、一定数の在宅生活継続困難者が存在する。
- 在宅生活の維持が難しくなっている理由のうち、本人の状態に属する理由として、「認知症の症状の悪化」、「必要な身体介護の増大」、「必要な生活支援の発生・増大」といった回答が多い。
- 在宅生活の維持が難しくなっている理由のうち、家族等介護者の意向・負担等に属する理由として、「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」を理由とする回答が62.1%と最も高くなっている。

(2) 生活の改善について

- 在宅生活の維持が難しい人のうち、より適切な在宅サービスで改善可能と考えられる人が19.9%を占める。
- 住まい・施設等への入所・入居が必要と考えられる人が41.3%みられる。
- 在宅サービスまたは施設等のいずれかで改善可能と考えられる人が35.8%存在する。
- 在宅サービスや住まいの変更では改善が困難と考えられる人も3.0%みられる。

(3) 施設入所・住まいについて

- 生活の改善に必要なサービスとして「特別養護老人ホーム」を選択した人のうち、申込をしていない人が約5割を占める。
- 特別養護老人ホームに入所ができていない理由として、施設に「空きがない」との回答が一定割合みられる。
- 特別養護老人ホーム以外の施設・住まいに入居できていない理由として、「申込をしていない」人が約7割を占める。

(4) 考察

①在宅生活の状況について

- 居所変更に至るケースが一定数あり、在宅生活継続を支える支援体制の強化が課題である。
- 居所変更先は医療機関が多く、医療ニーズの高まりへの対応が重要である。また、施設への移行も一定割合みられ、多様な受け皿の確保が求められている。
- 要介護度の高い利用者で在宅継続が困難となる傾向があり、重度者支援の充実が課題である。
- 在宅生活継続困難者が一定数存在し、早期把握と支援介入が重要である。本人の状態により在宅生活の維持が難しくなっているケースでは、認知症の悪化や身体介護の増大など、状態変化への対応強化が求められている。また、介護者負担の増大が主因であり、家族介護者への支援強化が重要である。

②生活の改善について

- 在宅サービスで改善可能な層が存在し、適切なサービス提供の強化が課題である。また、施設入所が必要とされる層が一定数あり、受け皿確保が重要である。
- 在宅・施設双方で改善可能な層が多く、柔軟な支援選択の提示が求められている。
- 改善困難なケースも存在し、個別性の高い支援の検討が重要である。

③施設入所・住まいについて

- 特別養護老人ホーム必要者の未申込が多く、入所申込に関する支援や情報提供の強化が課題である。
- 特別養護老人ホームの空き不足がみられ、需給バランスを踏まえた整備が求められている。
- 他施設でも未申込が多く、施設・住まいに関する選択肢の周知が重要である。

3 調査の結果

ver.2.0

在宅生活改善調査 集計結果

令和8年3月
神奈川県平塚市

発送事業所数：98件

回収事業所数：71件

回収率：72.4%

(注1) 不正確な回答や無回答等がある場合、正確な集計結果となっていない場合があります。エクセルファイルに入力したデータを良くご確認ください。
(注2) グラフのレイアウト等を変更する場合は、エクセルファイル上のグラフを修正の上、このファイルに貼り直してください。
(注3) 構成比を示す表は、セルの赤色が濃いほど100%に近いことを示しています。

1

【在宅生活改善調査】

調査の目的

- 在宅生活改善調査では、「過去1年間」の、①自宅等から居場所を変更した利用者の行先別人数や②自宅等において死亡した利用者の人数、また、現在自宅等にお住まいの方で、「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」の、①人数や②生活の維持が難しくなっている理由、③生活の改善のために必要な支援・サービス等を把握します。
- そして、調査の結果や、調査結果に基づいた関係者間での議論を通じ、住み慣れた地域での生活の継続性を高めるために必要な支援やサービス、連携のあり方を検討し、介護保険事業計画に反映していくことを目的としています。

調査の概要

- アンケートは、居宅介護支援事業所のケアマネジャーの方にご回答いただきます。各ケアマネジャーは担当する利用者について、上記の「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」を抽出し、その概要を回答します。
- それぞれのケアマネジャーが判断する、「その方の生活改善に必要な支援・サービス」が「地域に不足する支援・サービス」である、という考え方が基礎にあります。
- 本調査の集計では、「特養待機者」「その他施設等の待機者」「在宅サービス待機者」という言葉を使用していますが、これは特養のみでなく、その他のサービスの待機者についても同じように把握し、整備の必要性を検討するためのものです。

注目すべきポイント

- 過去1年間で、自宅等から居所を変更した人（住み慣れた住まいで暮らすことができなくなった人）は、どの程度いるか？
- 現在、生活の維持が難しくなっている人は、どのような人で、どの程度いるか？（継続的に調査し、その人数を減らすことはできないか）
- 生活の維持が難しくなっている理由、生活改善に必要な支援・サービスは何か？（サービス提供体制の構築方針の検討）

※ 特に生活の維持が難しくなっている理由や、必要な支援・サービスについては、アンケート調査の結果のみでなく、調査結果をもとに関係者間での議論を通じて検討することが重要です。

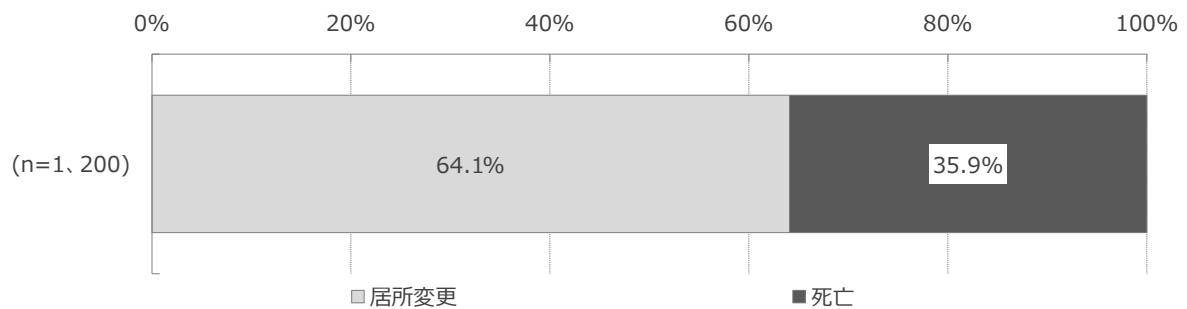
2

過去1年間の実績

3

過去1年間の実績

過去1年間の居所変更と自宅等における死亡の割合



平塚市全体で、過去1年間に
自宅等から居所を変更した利用者数



粗推計	回答実数
1061人	769人

平塚市全体で、過去1年間に
自宅等で死亡した利用者数



595人	431人
------	------

(注1) 「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。
(注2) 「粗推計」は、居所を変更した利用者数や自宅等で死亡した利用者数に、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。

4

過去1年間の実績

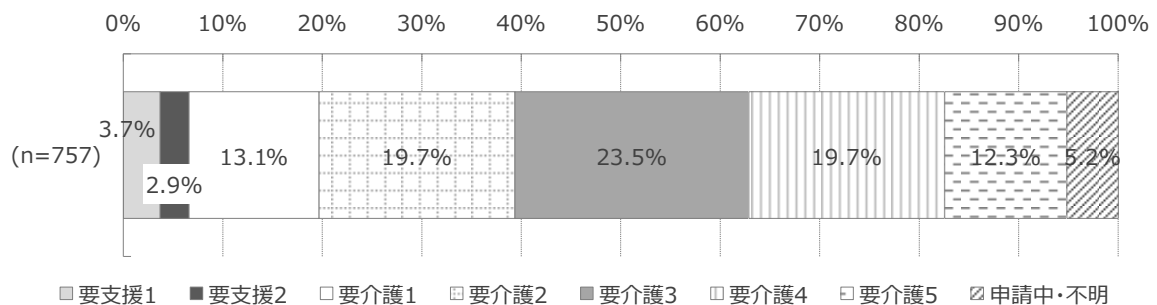
過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先別の人数

行先	市区町村内	市区町村外	合計
兄弟・子ども・親戚等の家	9人 1.2%	21人 2.7%	30人 3.9%
住宅型有料老人ホーム	123人 16.0%	19人 2.5%	142人 18.5%
軽費老人ホーム	1人 0.1%	1人 0.1%	2人 0.3%
サービス付き高齢者向け住宅	30人 3.9%	15人 2.0%	45人 5.9%
グループホーム	40人 5.2%	3人 0.4%	43人 5.6%
特定施設	35人 4.6%	10人 1.3%	45人 5.9%
地域密着型特定施設	2人 0.3%	0人 0.0%	2人 0.3%
介護老人保健施設	43人 5.6%	14人 1.8%	57人 7.4%
介護医療院	14人 1.8%	3人 0.4%	17人 2.2%
特別養護老人ホーム	133人 17.3%	19人 2.5%	152人 19.8%
地域密着型特別養護老人ホーム	8人 1.0%	1人 0.1%	9人 1.2%
病院・診療所	150人 19.5%	30人 3.9%	180人 23.4%
その他	16人 2.1%	1人 0.1%	17人 2.2%
行先を把握していない			28人 3.6%
合計	604人 78.5%	137人 17.8%	769人 100.0%

(注1) 「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。
 (注2) 表の上段の数値は、「回答実数」であり、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。

過去1年間の実績

過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の要介護度の内訳



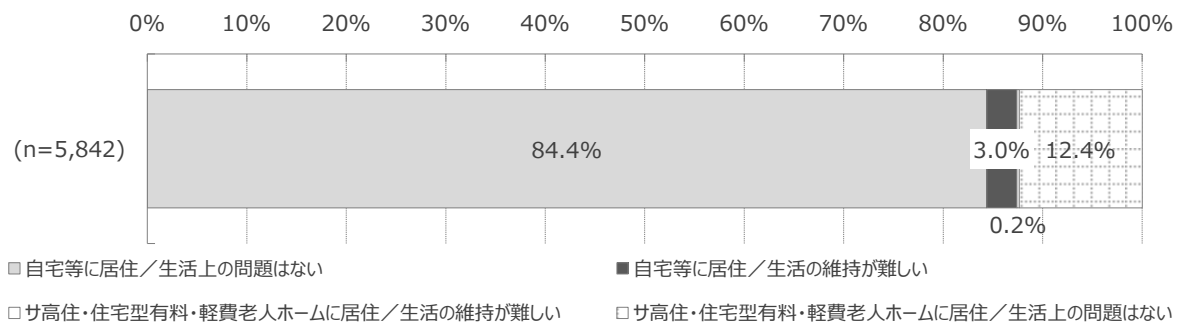
(注) 「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。また、死亡した方は集計から除いています。

現在の利用者の状況

7

現在の利用者の状況

現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者



自宅・サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームに居住する利用者のうち、生活の維持が難しくなっている割合

平塚市全体で、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者数



合計
(要介護2以下)
(要介護3以上)

3.3%

粗推計

264人
124人
131人

回答実数

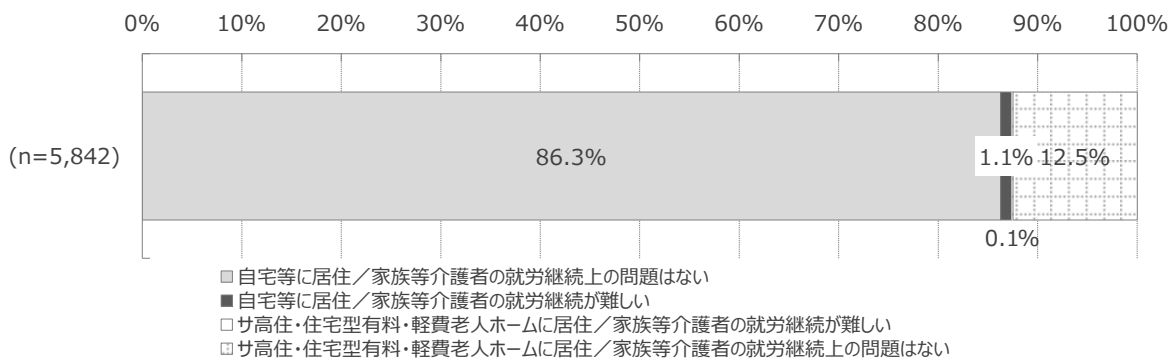
191人
90人
95人

(注)「粗推計」は、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者数に回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。

8

現在の利用者の状況

現在、家族等介護者の就労継続が難しくなっている利用者



自宅・サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームに居住する
利用者のうち、家族等介護者の就労継続が難しくなっている割合



1.2%

平塚市全体で、在宅での生活の維持が
難しくなっている利用者数



	粗推計	回答実数
合計	99人	72人
(要介護2以下)	44人	32人
(要介護3以上)	51人	37人

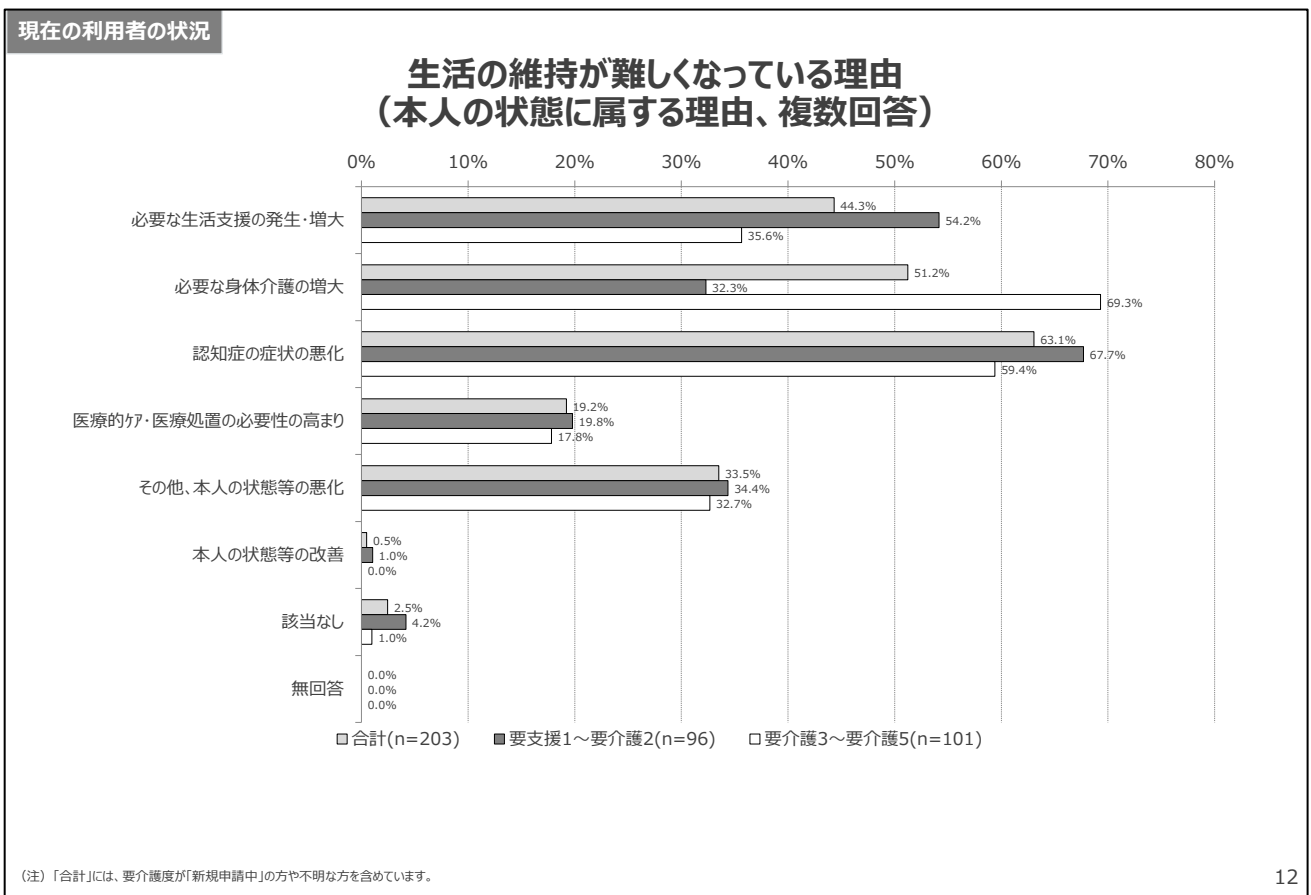
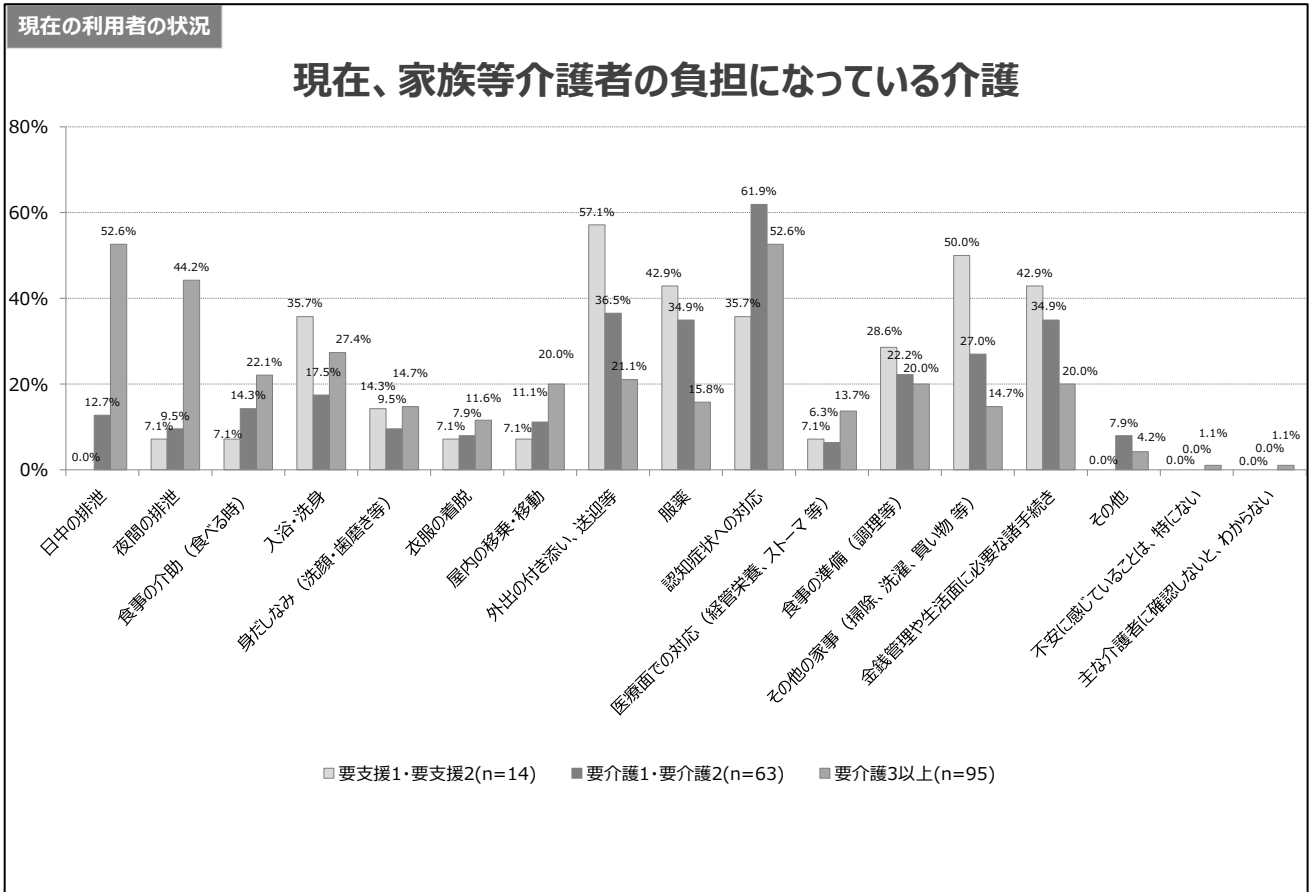
(注)「粗推計」は、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者数に回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。

現在の利用者の状況

現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者の属性

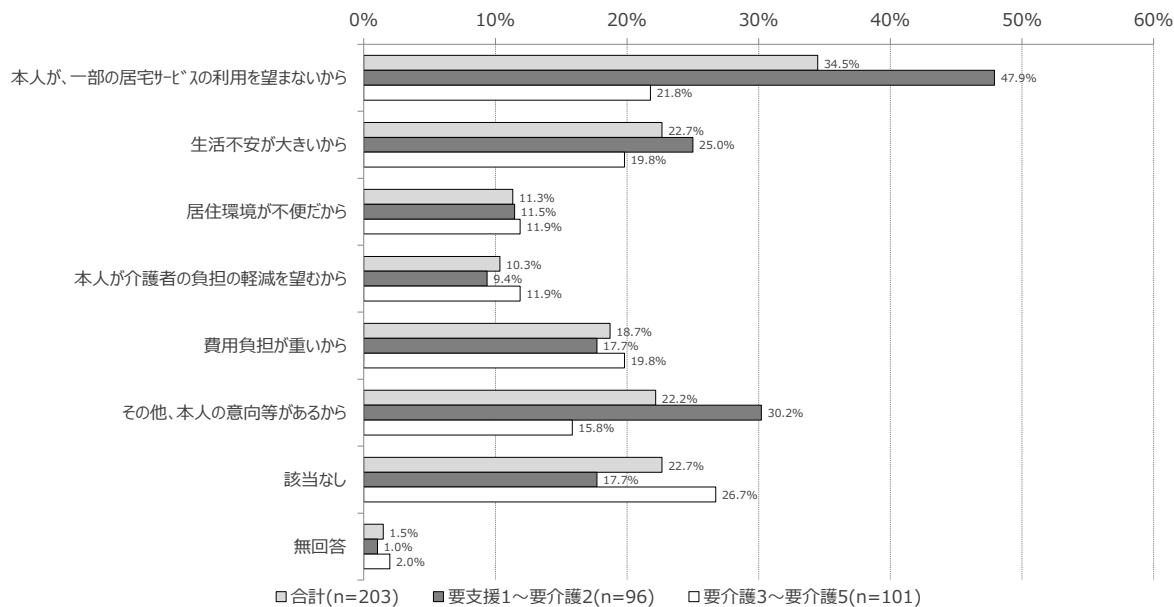
順位	回答実数	粗推計	割合	世帯類型				要介護度	
				独居	夫婦のみ世帯	単身の子どもの同居	その他世帯	介2以下	介3以上
1	52人	72人	25.6%	★				★	
2	31人	43人	15.3%		★				★
3	27人	37人	13.3%	★					★
4	22人	30人	10.8%				★		★
5	21人	29人	10.3%			★			★
6	16人	22人	7.9%		★			★	
7	15人	21人	7.4%				★	★	
8	13人	18人	6.4%			★		★	
上記以外	6人	8人	3.0%						
合計	203人	280人	100.0%						

(注)「粗推計」は、回答数に回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。また、「上記以外」には、要介護度が「新規申請中」の方や属性が不明な方を含めています。



現在の利用者の状況

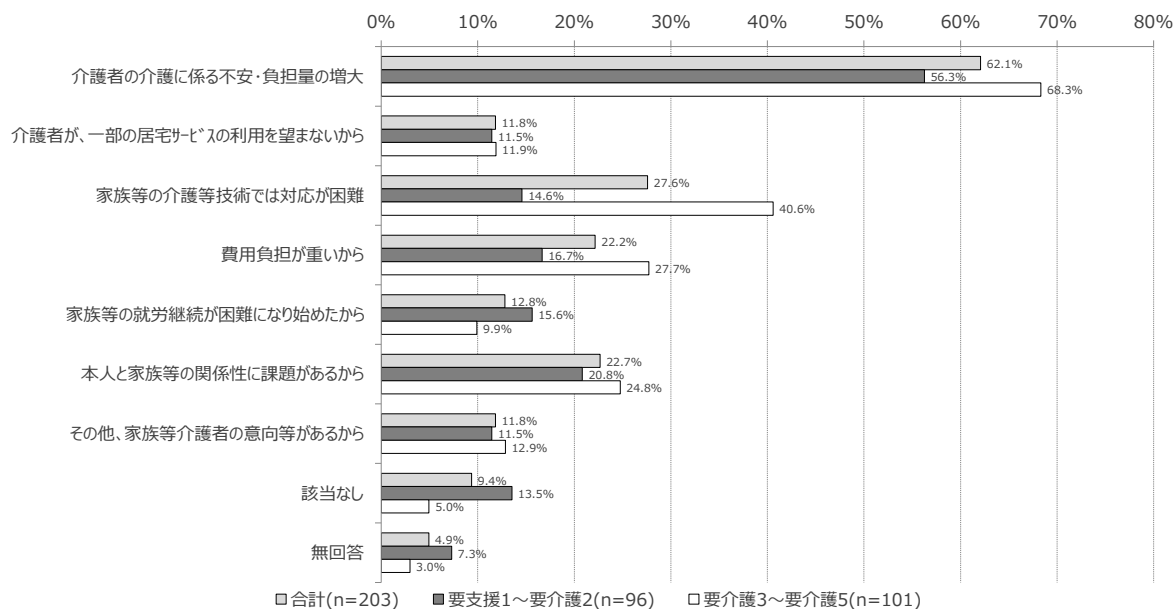
生活の維持が難しくなっている理由
(本人の意向に属する理由、複数回答)



(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

現在の利用者の状況

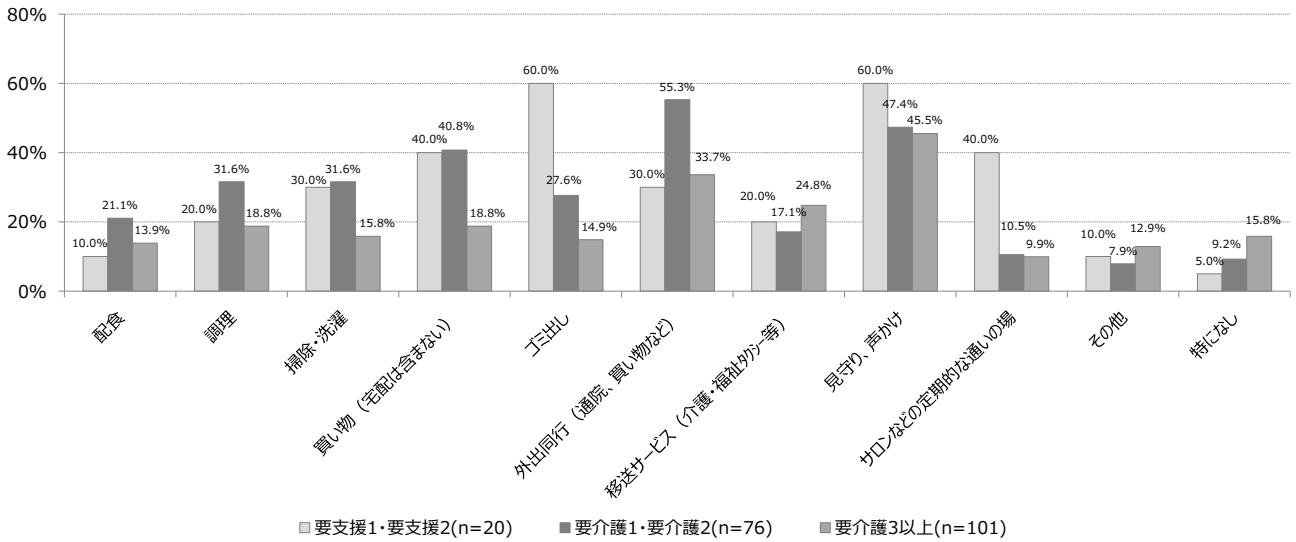
生活の維持が難しくなっている理由
(家族等介護者の意向・負担等に属する理由、複数回答)



(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

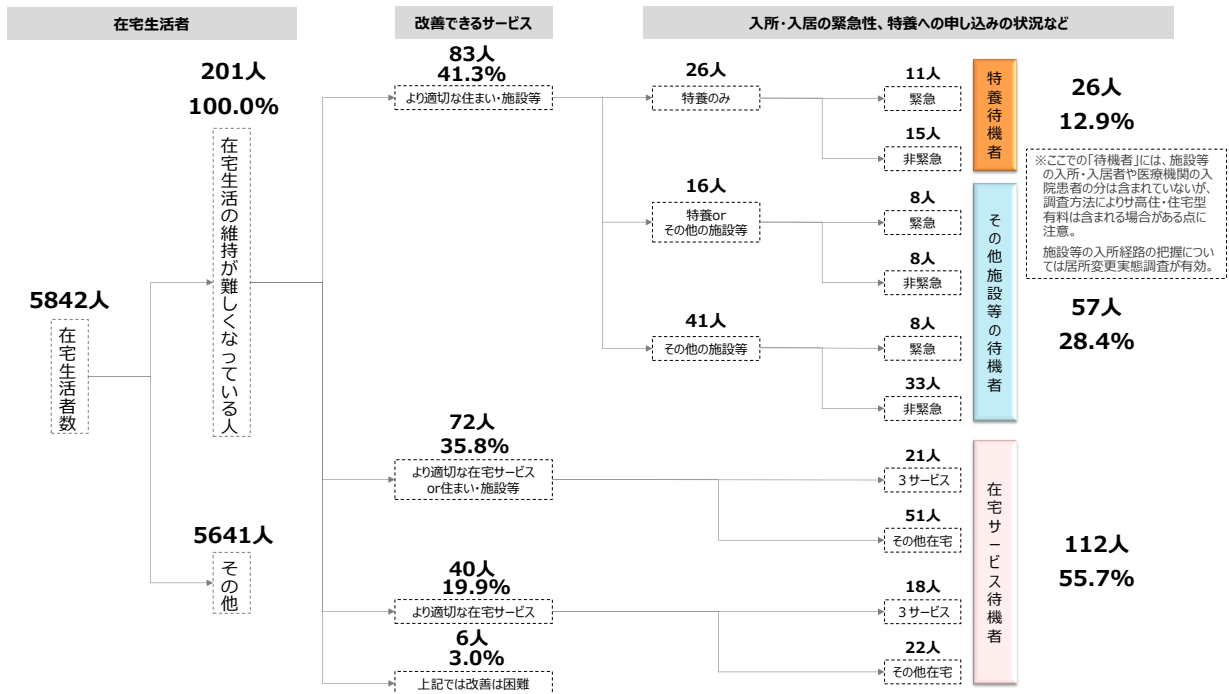
現在の利用者の状況

本人の生活の維持もしくは家族等介護者の就労継続のために、充実が必要な生活支援

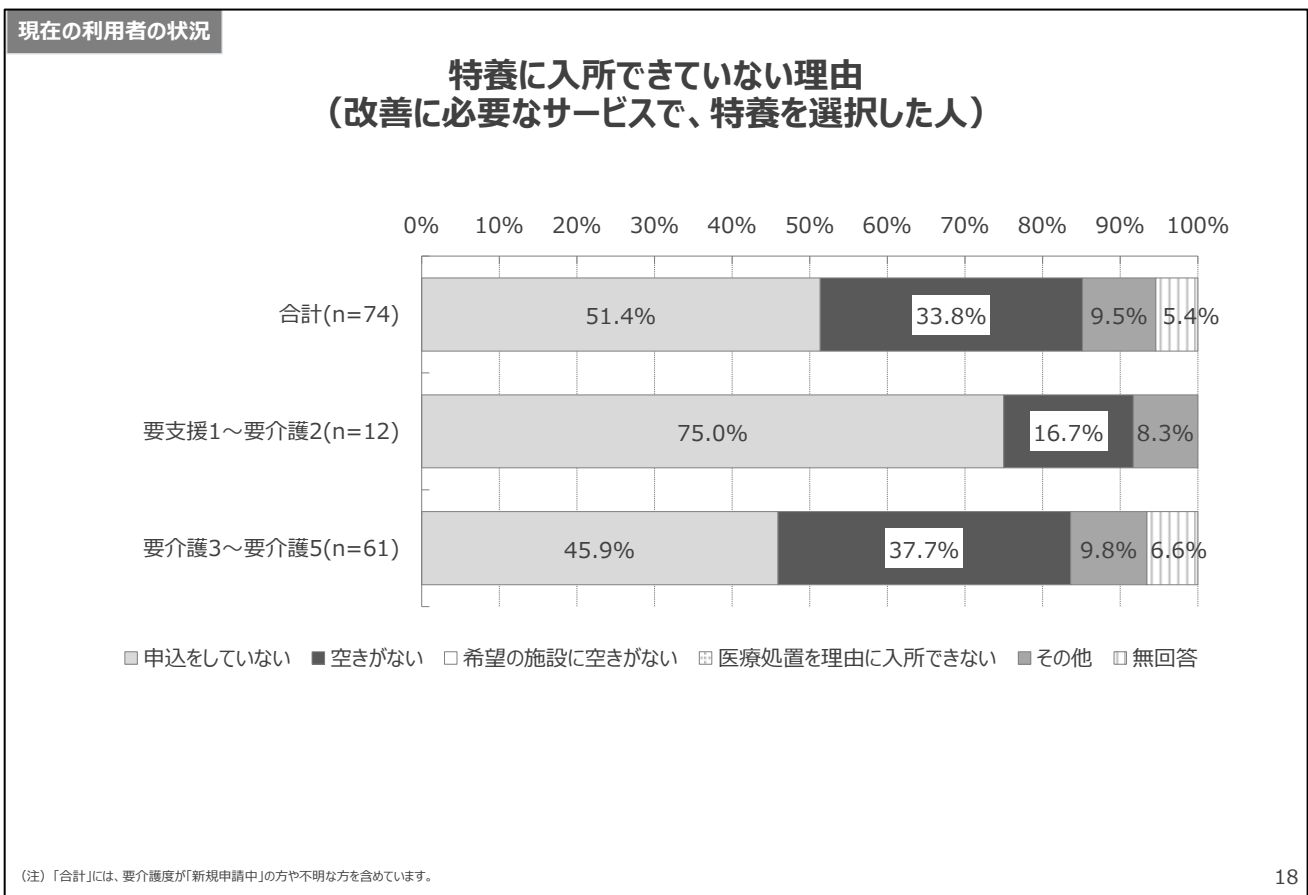
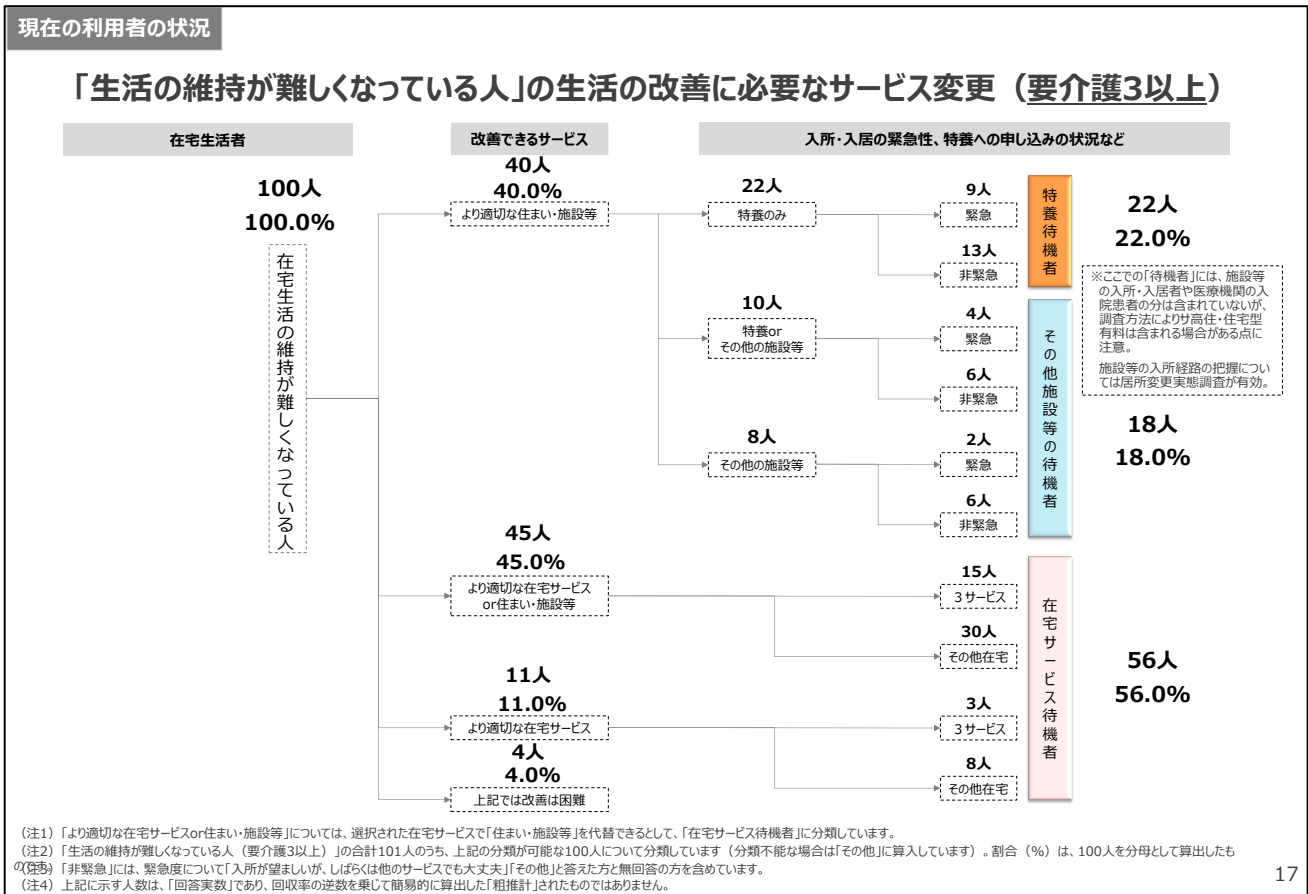


現在の利用者の状況

「生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更

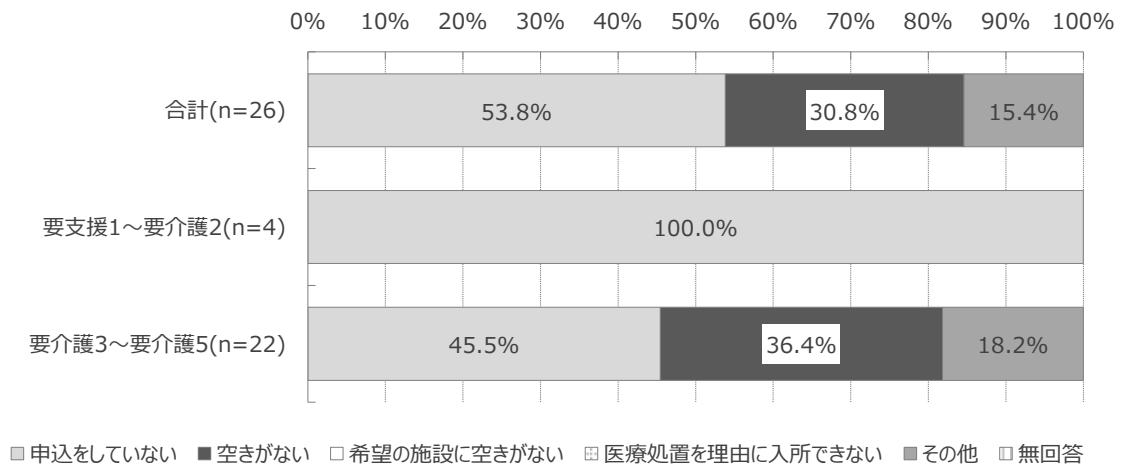


(注1) 「より適切な在宅サービスor住まい・施設等」については、選択された在宅サービスで「住まい・施設等」を代替できるとして、「在宅サービス待機者」に分類しています。
 (注2) 「生活の維持が難しくなっている人」の合計203人のうち、上記の分類が可能で201人について分類しています(分類不能場合は「その他」に算入しています)。割合(%)は、201人を分母として算出したものです。
 (注3) 「非緊急」には、緊急度について「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」「その他」と答えた方と無回答の方を含めています。
 (注4) 上記に示す人数は、「回答実数」であり、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。



現在の利用者の状況

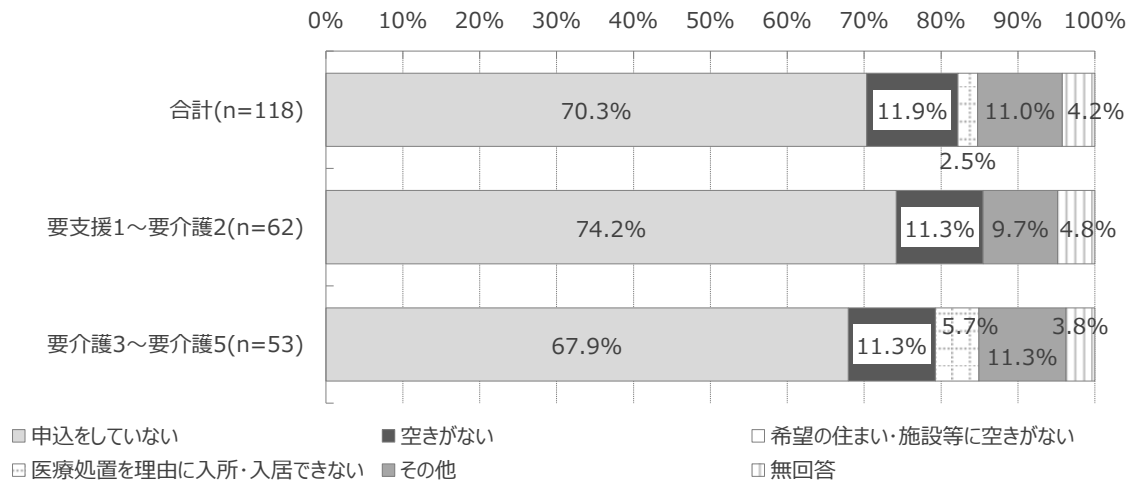
特養に入所できていない理由
(改善に必要なサービスで、特養のみを選択した人)



(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

現在の利用者の状況

特養以外の住まい・施設等に入所・入居できていない理由
(改善に必要なサービスで、特養以外の施設・住まい等を選択した人)



(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

